

# Public Voices 声のらん

皆さんの「声」にお答えします。

《声のらん》では、「市長への手紙・ポスト」などに寄せられた声とその答えの中から、市民の皆さんの参考になる問答をご紹介します。(内容確認のため、連絡先と名前をご記入ください。)  
【〒066-8686 / 東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課宛】

「子ども食堂とはなんですか? 市内にも子ども食堂はありますか?」  
「30歳代/女性」

## 声

最近テレビなどで、「子ども食堂」という言葉をよく耳にしますが、市内でも《子ども食堂》は実施されていますか。

## 答

《子ども食堂》は、食卓を囲みながら交流し、学習支援や遊びの機会を設けるなど、食を通じた地域コミュニティの場として広く展開されています。現在、市内でも、《子ども食堂》が開設されており、それぞれが特色を持った運営をしています。



流し、学習支援や遊びの機会を設けるなど、食を通じた地域のコミュニティの場としても広く展開されています。

お答えします

子ども福祉部子ども家庭課  
☎(24)03328 FAX(23)67000

《子ども食堂》とは「子どもが一人でも安心して利用することができ、地域の方たちが無料あるいは少額で食事を提供する場所」として、当初は貧困家庭や孤食の子どもの対象に始められました。現在では、地域のすべての子どもたちと大人が、賑やかに食卓を囲みながら交流する機会を設けるなど、

市は、市民の皆さんから「子ども食堂に協力したい」との相談を受け、平成29年5月に「子ども食堂フォーラム」、平成30年8月には「子ども食堂セミナー」を開催し、子ども食堂の開設や運営についての講演や、実際に運営されている方々からの事例発表とグループワークなどを行いました。

今後も、子ども食堂の開設や運営方法などの情報提供やネットワークづくりなど、普及に向けた支援を行います。



- 市内の子ども食堂
- ①子ども食堂 十彩(という) 毎週土 17時～19時 ☎080(9615)1648
  - ②ちとせ子ども食堂スキップ 月2回程度(平日) 15時～19時 30分/春夏冬休み中 12時～16時(各2回程度) ☎090(5208)2686
  - ③子ども食堂 REST 毎週金 16時～19時 ☎(22)0257



新市史下巻発刊に向けて

シリーズ第11回(全12回)  
快速「エアポート」  
筆者・中屋憲治

市史編さん担当  
☎(24)0523 FAX(42)3134



当初は列車愛称がなく方向幕に「快速」とのみ表示した(オレンジカード)。

## 新

千歳空港駅と札幌の「エアポート」は市民の通勤通学や空港利用者に欠かせない存在になっています。

普通運賃での速達サービス又は、昭和55年に鉄空一貫千歳空港(現・南千歳)駅開業時に始まります。早朝、手稲発の一本の普通電車が札幌発後は白石と新札幌のみに停車、初便航空旅客の利便に供したのです。

56年に千歳空港駅-札幌間に上下で4本の「快速」が登場、59年には等間隔運転の普通「くる来る電車」

プラ号SAPORO」が高頻度に運転する現在のような快速の素地を作り、「時刻表がなくとも列車に乗れる」をキャッチフレーズとしました。63年には快速「空港ライナー」(千歳空港駅-小樽間「マリンライナー」含む)として上下25本に増発、うち通勤主体型快速は長都にも停車しました。この間、62年4月には国鉄の分割民営でJR北海道に経営が移行しました。平成4年7月、新千歳空港ターミナルビルが完成し、地下に新空港駅が開業、「エアポート」と名を改めた快速は一気に上下100本、15分間隔の運行で利便性が大きく向上しました。現在には上下116本の「エアポート」が、毎日多くの人々を運んでいます。

28年度のJR北海道の駅別乗車人員順位では、新千歳空港駅が札幌に次いで道内2位、千歳が8位、新空港-札幌間の移動手段は鉄道が50%超と群を抜いています。